

2014 環境報告書

Environmental Report



人と地球にいいコミュニケーションパートナー



E-Communication partner

KINKAN GROUP

【目次】

01. グループ概要

02. トップメッセージ

環境経営へのベースライン

03. 基本理念、沿革

04. 環境マネジメントシステム(EMS)

05. 環境マネジメントへの取り組み

環境・社会活動の推進

13. 低炭素社会への取り組み

15. 自然と生物多様性の保全活動

17. 地域とのコミュニケーション

20. 環境学習活動

21. 福祉への取り組み

事業活動の強化

23. 体系的な事業内容

24. 効率的な運搬車輛

25. 先進的な施設・設備

29. 第三者意見

30. 環境・社会活動のあゆみ

【報告対象期間】2013年度(2013年5月1日～2014年4月30日)

※関連する報告で一部この期間が前後している場合があります。

【報告対象組織】KINKANグループ全社(4社)

【参考にしたガイドライン】環境省「環境報告書ガイドライン(2012年版)」

【発行】2014年10月

【グループ概要】

【会社名】近畿環境保全株式会社(会社設立 1975年6月11日)

【代表者】代表取締役社長 西村 忠浩

【資本金】1,600万円

【所在地】本社/〒525-0041 滋賀県草津市青地町196番地

【会社名】株式会社湖南リサイクルセンター(会社設立 2001年3月22日)

【代表者】代表取締役 西村 忠浩、代表取締役 西村 美代子

【資本金】1,000万円

【所在地】本社/〒520-3114 滋賀県湖南市石部口三丁目6番13号

【会社名】株式会社きぶら(会社設立 2008年4月1日)

【代表者】代表取締役 西村 忠浩

【資本金】100万円

【所在地】本社/〒520-3114 滋賀県湖南市石部口三丁目6番13号

KINKAN グループは
環境サービス全般を通して
循環型社会の構築のため
日々活動しています。



【会社名】有限会社ラゴ(会社設立 2005年1月12日)

【代表者】代表取締役 西村 美代子

【資本金】300万円

【所在地】本社/〒525-0041 滋賀県草津市青地町196番地

【URL】<http://www.kin-kan.co.jp>

【業務内容】

産業廃棄物中間処理業 一般廃棄物中間処理業
産業廃棄物収集運搬業 一般廃棄物収集運搬業
特別管理産業廃棄物収集運搬業
資源物再生事業/建設解体業
リフォーム・外構工事/環境機器販売
廃棄物全般のコンサルタント業務

トップメッセージ

この美しいびわ湖を
地域の方々とともに
次世代へ残せるように
歩んでまいります。

まずはじめに、毎年になります環境報告者2014の発行に際しまして、ご協力いただきました関係者の皆様から御礼申し上げます。

さて、2009年度から作成しておりますこの環境報告書ですが、おかげさまで5年間も継続することが出来ました。当初の基本コンセプトから一貫しているのは、「手に取った時に読んでもらえる報告書にしよう。」でした。スタッフが一から企画し、手作りに近い状況でまとめあげ、デザインのみを協力業者様にお願いするという手法は今も変わらず続いています。

決してエゴにならず、ステークホルダーの皆様にとって頂きたい事例をコンテンツとしてわかりやすく発信してまいります。

私たちも、これからの方向性や新たなビジョンを指し示す時期に来たと感じています。新しい時代に向けた、新しい価値観で、新しいサービスの構築を進めてまいります。今まで培った業界での経験と実績をもって、環境というフィルターを通して、福祉や教育などとの複合サービスを創出し、時代にあわせた変化を進めてまいります。

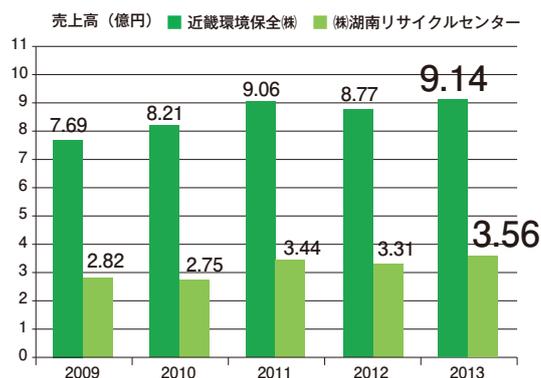
企業の皆様にも、市民の皆様にも読んでいただける報告書を目指し、更に継続していく所存でございます。

今後とも、ご支援ご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。



近畿環境保全株式会社 代表取締役社長
株式会社湖南リサイクルセンター 代表取締役

西村 忠浩



環境経営へのベースライン

[基本理念、沿革]

環境の

私たちの活動指針は、環境です。
迷ったときは環境を最優先に
物事を運びます。

基本理念 3 K

感動の

私たちが行動を起す源は、
感動です。感動がないと、
人は動きません。

改革の

私たちが考えているのは、
常に改革です。改革なくして
発展はありません。

この気持ちをスタッフ全員が
心に刻み、積極的に挑戦していく
グループであり続けます。

【沿革】

- 1962年 創業者の西村裕司が「西村商店」として京都市内で廃棄物回収の事業を始める。
- 1975年 近畿環境保全株式会社を設立。
- 1994年 滋賀県で産業廃棄物中間処理業の許可を取得。破砕機と焼却炉で事業を開始。
- 1998年 中間処理業の許可に品目追加。【廃プラスチックと感染性廃棄物の焼却】
- 2001年 「有限会社新生」を設立。プラスチックリサイクル事業に本格的に乗り出す。
- 2002年 湖南省に「近畿環境保全株式会社 石部リサイクルセンター」を竣工、
2003年より本格的に事業開始。
- 2005年 京都市における一般廃棄物収集運搬業を分社し、有限会社ラゴを設立。
石部リサイクルセンターを別法人に分社化、「株式会社湖南リサイクルセンター」として
現在に至る。この時に子会社の新生も合併。総合リサイクルセンターとして事業拡大。
- 2008年 株式会社きぶらを設立し、5月より廃木材をチップ化しリサイクルする新工場を竣工。
- 2009年 西村忠浩が近畿環境保全株式会社の代表取締役社長に就任。
西村裕司が近畿環境保全株式会社の代表取締役会長に就任。
- 2011年 株式会社きぶらの木材チップ製造施設を株式会社湖南リサイクルセンターに譲渡。
湖南リサイクルセンターにおいて、木くずの破砕施設許可を追加取得。
- 2013年 食品リサイクル施設「F.R.O.Gセンター」を竣工。



かけがえのない地球を大切にしたい。
 そんな思いを実現するためにKINKANグループは
 環境に配慮した経営を目指します。

人と地球に“いい” コミュニケーションパートナー

環境マネジメントシステム【EMS】

当グループは、資源リサイクルと廃棄物の収集運搬及び
 中間処理業を3本柱とし、適正な再資源化、
 処理を通じて、循環型社会の構築に努めます。



KINKANグループ 環境活動方針

① 廃棄物を資源と認識し、適正に再資源化、再利用、再生利用、処理することに努めます。

- ① 資源の有効利用と、社内から出る廃棄物の分別及び再資源化に努めます。
- ② 中間処理後産業廃棄物のリサイクル率向上に努めます。
- ③ 地域に根ざした環境事業の推進で、地域社会への貢献に努めます。

② 環境関連法規制・条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

③ 事業活動から生じる環境負荷を低減するため、具体的環境目的・目標を定め、
 環境マネジメントシステムを継続的に改善することにより、環境汚染の予防に努め、
 環境保全活動を推進します。

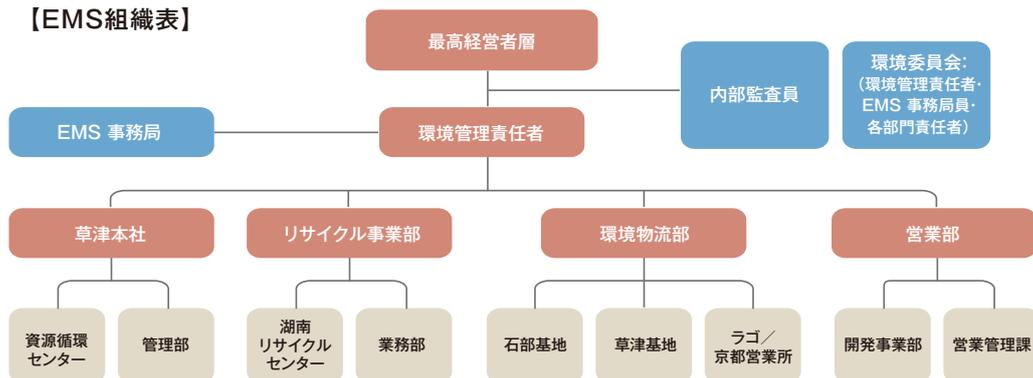
④ 全構成員が、環境保全事業に従事する自覚を持ち、
 常に環境に配慮した行動を心がけるよう周知し、環境に関する教育及び啓蒙を行います。

⑤ 本方針を実行し、維持し文書化して、全構成員に周知徹底するとともに、
 社外にも情報開示します。

2005年9月6日 現在



【EMS組織表】





安心・安全なコンプライアンス

法規制の遵守

事業者の産業廃棄物はその事業者自らが処理しなければならない原則がありますが、処理ができない場合は、廃棄物処理業者に委託することが出来ます。

当グループは排出事業者の皆さまから、収集運搬と処分を委託して頂きます。様々な地域における収集運搬業許可と処分業許可を取得し、法を遵守した適正処理を行っている上、マニフェストによって廃棄物の流れを最初から最後まで管理しています。

【スタッフコメント】 コンプライアンス室 室長 永戸 浩一

産業廃棄物業界は、法改正など時代の流れによって、効率経営から、環境経営へと様変わりし、運送と製造（廃棄物から廃棄物）の両面持つサービス業を行う中で、道路交通安全や労働安全衛生等のリスクの高い業界となっております。

ステークホルダーの要望に耳を傾け、従業員への周知活動を通して当社に任せて安心安全の体制を構築し更なるCSR活動を進めてまいりたいと考えております。



法律・条例 一覧(五十音順)

- 悪臭防止法
- 各種リサイクル法
- 火災予防条例
- 揮発油等品質確保法
- 計量法
- 建設業法
- 個人情報保護法及び
滋賀県個人情報保護条例
- 湖南省環境基本条例
- 滋賀県ごみの
散乱防止に関する条例
- 滋賀県生活排水対策の
推進に関する条例
- 消防法
- 浄化槽法
- 振動規制法
- 人権教育及び人権啓発の
推進に関する法律及び
滋賀県人権尊重の
社会づくり条例
- 石綿障害予防規則
- 騒音規制法
- 男女雇用機会均等法
- 電気事業法
- 道路運送車輛法
- 道路交通法
- 同和対策特別処置法
- NOx・PM 法
- 廃棄物の処理及び
清掃に関する法律
- フロン回収破壊法
- 暴力団等排除条例
- 労働安全衛生法

当グループでは、廃棄物の処理の際に発生する、騒音・振動・臭気に対して、騒音規制法・振動規制法・悪臭防止法の基準以下となるよう環境への負担を軽減する努力を重ねています。又、水質汚濁防止法の特定期間には該当していませんが、自主的に水質も測定しています。

(参考データ：2013年5月30日実施)

騒音レベルと振動レベルの調査結果と評価

騒音と振動のレベルに関する調査を毎年一回当グループの2社にて行います。2013年度の調査結果によれば、実際の騒音レベルと振動レベルは規制基準値以下でした。

騒音レベル	株湖南リサイクルセンター	近畿環境保全㈱
規制基準	70dB	65dB
調査結果 (場所/No1)	52dB	60dB
(場所/No2)	56dB	49dB
評価	○	○

振動レベル	株湖南リサイクルセンター	近畿環境保全㈱
規制基準	70dB	65dB
調査結果 (場所/No1)	38dB	38dB
(場所/No2)	41dB	38dB
評価	○	○

臭気測定の結果と評価

臭気レベルに関する調査の結果は、規制基準値以下でした。

	株湖南リサイクルセンター	近畿環境保全㈱
規制基準	敷地境界線14	12
試験の結果(臭気指数) (場所/No1)	10以下	10以下
(場所/No2)	10以下	10以下
評価	○	○

水質

放流水に関してもデータ管理を行っており、年一回水質に関する調査を自主的に実施しています。

計量対象項目	単位	計量の結果		計量の方法
		株湖南リサイクルセンター	近畿環境保全㈱	
ノルマルヘキサン抽出物含有量	mg/L	0.7 (↑)	1.1 (↑)	環境庁告示第64号付表
大腸菌群数(デソ法)※	個/m ³	0 (-)	240 (↑)	厚生省・建設省令第1号
水素イオン濃度		7.1 (↑)	7.0 (↓)	JIS K0102 12.1
(pH測定時試料温度 ※)	℃	20 (↑)	19.9 (↑)	JIS K0102 7.2
浮遊物質量	mg/L	4.4 (↑)	13.5 (↑)	環境庁告示第59号付表
化学的酸素要求量	mg/L	3.2 (↑)	23.5 (↑)	JIS K0102 17
生物化学的酸素要求量	mg/L	5 (↑)	29 (↑)	JIS K0102 21及び32.3
燐含有量	mg/L	0.1未満 (↓)	0.2 (↓)	JIS K0102 46.3
窒素含有量	mg/L	0.5未満 (-)	1.1 (↓)	JIS K0102 45.2

※印項目は、計量証明対象外項目です。()は昨年度と比較。

順守確認日
2014年2月27日

評価:

すべて順守



安心・安全な事業エリア +

※2014年9月1日現在

許可都道府県及び許可品目

○…産業廃棄物収集運搬業 ◎…積替え保管の許可もある品目 ☆…申請中

燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	ガラス・陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	特管 腐食性廃酸	特管 腐食性廃アルカリ	特管 特定有害廃酸	特管 特定有害廃アルカリ	特管 感染性産業廃棄物	特管 特定有害廃石綿等
-----	----	----	----	-------	----------	-----	-----	------	--------	------	------	-----------	-----	------	------	-------------	----------------	--------------	-----------------	----------------	----------------

※特管:特別管理産業廃棄物

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物 収集運搬業 近畿環境保全(株)

都道府県	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	ガラス・陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	特管 腐食性廃酸	特管 腐食性廃アルカリ	特管 特定有害廃酸	特管 特定有害廃アルカリ	特管 感染性産業廃棄物	特管 特定有害廃石綿等
石川県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
福井県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
静岡県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
愛知県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三重県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
滋賀県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
京都府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
奈良県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡山県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広島県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	☆		
山口県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
香川県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						

※普通産廃は石綿含有産業廃棄物を含む

一般廃棄物 収集運搬業 近畿環境保全(株)

愛知郡愛荘町、大津市、草津市、湖南市、彦根市、守山市、野洲市、栗東市、湖北広域
京都市 (南ラコ)

中間処理業 近畿環境保全(株) 草津工場

破 砕	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラス・陶磁器くず
-----	------------------------------

中間処理業 近畿環境保全(株) F.R.O.Gセンター

選 別	汚泥(有機性汚泥に限る)、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、動植物性残渣、金属くず
-----	---

中間処理業 (株)湖南リサイクルセンター

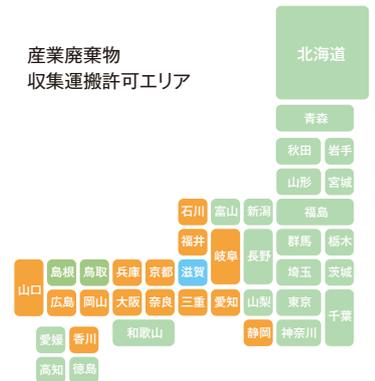
破 砕	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・陶磁器くず、がれき類
破 砕	ガラス・陶磁器くず (石膏ボード)
圧 縮	廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず
溶 融	廃プラスチック類 (発泡スチロール)
一般廃棄物処分	粗大ごみ、不燃ごみ、木くず、刈草、剪定枝

当グループは産業廃棄物収集運搬、特別管理産業廃棄物収集運搬、事業系一般廃棄物収集運搬、産業廃棄物と一般廃棄物の中間処理許可を幅広く取得しています。

滋賀県湖南エリアや湖北広域、彦根市と愛知郡愛荘町、また京都市における一般廃棄物収集運搬の他、石川県から香川県までの15府県にて産業廃棄物を収集運搬しています。

2014年に広島県における特別管理産業廃棄物収集運搬許可を申請しました。

産業廃棄物 収集運搬許可エリア



一般廃棄物 収集運搬許可エリア





✦ 安心・安全な仕事環境づくり

防災訓練

安心・安全な仕事環境づくりのために仕事や作業の危険性を把握し、未然の防止や危険性の削減対策を行っています。

当グループにとって重大な緊急事態の一つに火災があります。万が一を想定し、緊急事態に対応するための対策手順を策定しています。また、スタッフ全員が手順どおりに実施が行えるよう、定期的に社内勉強会や訓練を通じて意識の向上をはかっています。

2013年度には、9月30日に湖南リサイクルセンターにおいて、10月4日には、草津本社にて消防訓練を行いました。



事故防止に関する訓練

火災やその他起こりうる事故に関して、安全委員会の設置や社内での勉強会、訓練を行っています。

安全委員会とは「無事故・無災害」を目的に立ち上げられた委員会です。

メンバーはリサイクル事業部、環境事業部(物流部門・資源生産部門)、開発事業部、営業部、本社の各担当者で構成され、月一回の定例会議を行っています。工場内・物流業務等、業務の中に潜む危険箇所を挙げ、改善策を決定していきます。

活動は定例会議のみならず、安全パトロールや勉強会の開催もしています。安全パトロールでは、週一回安全委員のメンバーが各現場の見回りを行います。また勉強会は、各部署で月一回、社内全体では年二回開催されています。危険予知(KY)活動やリスクアセスメントについて学びます。




 廃棄物処理・リサイクル「安心・安全」の全国ネットワーク
エコスタッフ・ジャパン
 全国における認定された優良な廃棄物処理業者のネットワーク

滋賀県唯一の認定企業

2011年よりKINKANグループは滋賀県唯一のエコスタッフ・ジャパン認定企業として認められています。

スタッフがESJネットワークにおける営業研修やドライバー研修、安全衛生研修、合同施設見学会などに参加し、学びながらスキルアップをはかります。お客様に安心・安全でより良いサービスを提供できるよう知識をレベルアップしていきます。



2013年8月23日に営業研修に参加しました



2014年1月23日に合同施設見学会に参加しました



被災から防災へ

2013年9月15日早朝台風18号の影響により、当グループの湖南リサイクルセンターが水害にあい被災しました。木材チップを製造している破砕機は水没、工場全体と事務所が浸水し、営業車5台、空調設備が大きな被害を受けました。

しかし、不幸中の幸いで、15日当日よりスタッフが復旧に努め、翌日より施設を稼働させることができました。

この被災から、水害対策の必要を再認識し、防災対策を強化しました。



2013年6月27日にエコスタッフジャパンの認定企業40社でBCP協定の締結を環境省にて行いました。「自然災害や不可抗力」により事業活動が継続困難な状況におちいった場合に認定企業が相互に支援し合う協定です。



【スタッフコメント】
統括管理
課長 西村 篤



休日の明け方に連絡が入り工場に濁流が押し寄せる写真を見て飛び起きました。既に出発しているドライバーへ引き返すように指示を出し、工場へ様子を見に行っている社員と連絡を取りながら、水が引くと同時に現場へ向かい作業に当たりました。

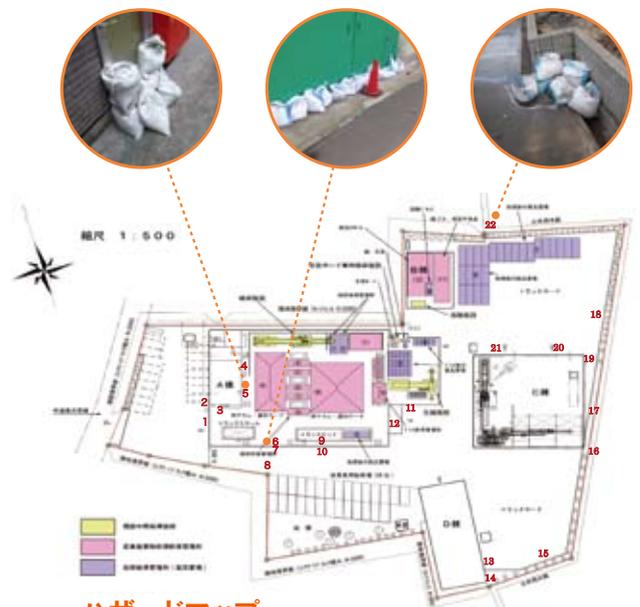
辺り一面、水浸しの泥状になっていて、泥の様子から70cmくらいの水位がありました。消防のホースでドロを出し、遅くまで片付けをしたおかげで、休み明けから受入れや収集業務が再開できました。

お客様にはご心配、ご迷惑をお掛けすることもありましたが、休業することもなく事業が出来たことは不幸中の幸いでした。

防災対策

工場が河川に近く土地も低いことから、事務所内のフロアの高上げ、設備の擁壁の設置等を実施しました。

また、災害時の行動マニュアルや、工場内のハザードマップを作成し、災害を未然に防ぐように努めています。



ハザードマップ



+ 安心・安全な施設づくり

工場見学会

廃棄物処理についての情報をお客様に提供するだけでなく、お客様自らが、処分地を確認することができます。ご希望があれば、当グループの施設はもちろん、最終処分地においても視察や確認が随時可能となっています。また、研修や環境学習のための工場見学会も行っています。



社会教育研修の一環として来られた湖南省教育委員会の先生方による当社工場見学の様子

処分地の確認

お客様から安心して処理を任せいただけるよう、最終処分地に赴いての視察、処理の適正さを確認しています。お客様にご提案するのは、適正さの確証が得られた最終処分地のみとなっています。



2014年7月に上海の
廃プラスチック
マテリアルリサイクル施設を
視察しました



2013年9月25日に廃プラスチック処分場である株式会社社京都環境保全公社へ視察に行ってきました



【スタッフコメント】

営業部
廃棄物・リサイクルチーム
牧 大地

お客様が安心して処理を届けるために2次処分先、最終処分先の視察を行っています。

処分先の確認に現地へ行けない排出事業者様の代わりにプロの目線でしっかりと確認をいたします。ご希望があれば排出事業者様と視察同行いたしますので、ぜひお声かけください。

また、当グループの施設見学も随時行っています。実際に処理工場を見ていただく事で当社の処理工程・方法をご理解頂けるものと思います。当社に処理を委託して良かった、安心してとお客様に感じて頂けるような工場案内を心がけていきたいと思っています。



ISO14001目的・目標

当グループは2005年より環境マネジメントシステムISO14001を実施しています。環境への負担を軽減するために、前年度よりもさらに高い目標を掲げ、環境経営を行っています。2012年度には、リサイクル率やグリーン購入率の向上、社員の環境ポイント増加などを目指した結果、ほぼ達成することができました。



2005/280
ISO14001 認証取得

湖南リサイクルセンター

産業廃棄物のリサイクル

産業廃棄物の中間処理に特化した湖南リサイクルセンターにて年々リサイクル率の向上に努めています。

マテリアルリサイクル率
33.7%
目標達成

湖南リサイクルセンターにて産業廃棄物の中間処理を行っています。細かな選別や新たなリサイクル先の開拓により、環境へ配慮した処理に心掛けています。また、お客様にリサイクル率100%可能な処理方法、ゼロエミッションを提案しています。2013年の目標として、産業廃棄物の中からマテリアルリサイクルされる廃棄物の割合を30%目指しました。実際のマテリアルリサイクル率は目標を上回り、約34%になりました。また、維持管理項目として産業廃棄物のリサイクル率(マテリアルリサイクルおよびサーマルリサイクル)を把握しています。2013年度に湖南リサイクルセンターに搬入された廃棄物の約65%がリサイクルできました。



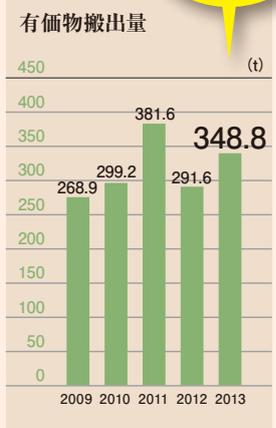
資源循環センター

資源ごみのリサイクル

事業系一般廃棄物とともに回収される資源物は資源循環センターにてリサイクルされます。

有価物搬出量
348.8t
目標達成

2013年度にリサイクルにつなげた資源ごみの重量は2124トンであり、昨年度より1.5%増加しました。その中で最も多く扱われる資源ごみはダンボールと古紙ですが、ISO14001では、ペットボトル、缶、ビン(有価物)の搬出量に関して目標を立てました。2013年度の目標は2010年度より3%向上した308トンの排出量でしたが、それを上回る348トンの排出量とすることができました。



木材チップ化施設

木くずのリサイクル

木材パレットや生木などの木くずをより効率的に再利用するために、専用の破碎施設を設けています

木くずリサイクル率
99.5%
目標達成

当社にてチップ化された木材は品質により製紙原料または建材、燃料として再利用されます。

また、品質が良い木のチップはWeedLockという木材れんがに使われます。2013年度の木くずリサイクル目標として90%を掲げました。実績として99.5%を達成し、搬入された木くずのほぼ全てを再利用に繋げることができました。



製紙原料チップ WeedLock



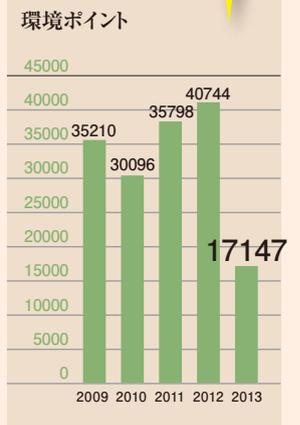
環境ポイント運動

社員の取り組みとして、毎年継続して資源物回収運動を行っています。

スタッフ5割
100
ポイント
達成

社員に缶、ペットボトル、新聞などの資源物を家庭で収集してもらい、個数や重さに応じてポイントを付与しています。他にも、環境に関するイベントや清掃活動に参加することでもポイントが与えられます。毎年、最も積極的に参加した20名の社員を表彰するなど、社員の士気を高めています。この取り組みもISO14001に掲げる目標の一つであり、年々目標ポイントを上げています。

2013年度の目標は一人当たり100ポイントであり、3年間の目標ポイントを合算した270ポイント(2011年度80p、2012年度90p、2013年度100p)を社員の半数が達成しました。全体として17147ポイントを獲得しましたが、前年度よりもポイント数は減少したため、社員へのアプローチ強化に努めています。





ISO14001目的・目標

【スタッフコメント】

環境事業部環境システム物流課
主任 中村 真也

物流課では3台の低公害車輛を購入し、さらに環境への負担を少なくできたと思います。また、車輛を4トンより3トンにしたことにより、積載効率が高くなり、過積載防止にもつながります。

また、自分のもう一つの目標は環境ポイント100で、達成できました。

資源ごみを会社を持ってくるようになったのは、3年前今の家に引っ越した時からです。

最初は便利だから持ってきていましたが、今はもう習慣になって、家族では私が資源ごみ片づけの担当になりました(笑)。資源ごみに対してポイントが付いて、一年に一回表彰されることはまたモチベーションになります。毎回の表彰式が楽しみです。

今年も頑張って沢山集めようと思えますし、大きくなっている子どもにも意識させはじめようと思っています。



低公害車輛の導入

低公害車輛

3台購入

環境への負担を減らすため、車輛の購入も低公害車輛にこだわって導入しています。

2013年度には低公害車輛を新たに3台購入し、この3年間で新車輛は10台増加しました。導入した車輛はNox・PM対応車であり、2015年燃費基準達成車および2001年騒音規制車です。運搬車輛あつての業界だからこそ、環境に配慮できる車輛を選定しています。



グリーン購入

環境配慮型商品の購入を推進しています。

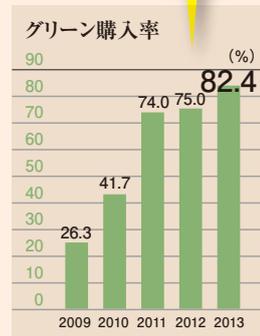
当グループは2009年度より滋賀グリーン購入ネットワークの会員となっています。文具や事務用品を購入する際には、可能な限り環境配慮型商品を選択しています。

社内で購入する商品の中で、環境配慮型商品の割合を年々増加させるようISO14001の目標金額を設定しています。2011年度から3年間、購入金額の40%以上を維持できるように目標を掲げ、目標を達成しながら2013年度には80%を超えることができました。



グリーン購入率

82.4%
目標達成



情報ポイント

情報ポイントは、2011年度より新しい取り組みとして追加されました。

2年前から営業部では、お客様に対して当グループの情報発信をすることで情報ポイントが付与される取り組みを始めました。自社ホームページやfacebook、産廃情報ネットなどから最新の情報を発信しています。

2013年度の目標は78ポイントを掲げ、実績として目標を大きく上回る112ポイントになりました。

お客様に安心を提供できるよう、今後も積極的な情報発信に努めていきます。

2013年度

112P
目標達成





ISO14001目的・目標、維持管理結果表

ISO14001目的目標実施計画表

部門	環境方針	著しい環境側面	環境目的	目的目標 結果		
				2011年結果	2012年結果	2013年結果
全構成員	地域に根ざした環境事業の推進で地域社会の貢献に努めます。	環境ポイント制度	全構成員は環境ポイントを2013年までに270ポイント以上獲得する(2011年度80P・2012年度90P・2013年度100P)	47人/62人 35838 P	45人/65人 38402 P	32人/61人 17147P
管理業務部		グリーン購入	事務用品のグリーン購入比率を40%以上の達成	73.9% 達成	75% 達成	82.4% 達成
湖南リサイクルセンター	中間処理後産業廃棄物のリサイクル率向上に努めます。	廃棄物リサイクル率の向上	中間処理後産業廃棄物の総受入量の有価物排出量比の向上。2013年度末までに30%達成	36.88% 達成	37.07% 達成	33.66% 達成
湖南リサイクルセンター	資源の有効利用と社内から出る廃棄物の分別及び資源ゴミの再資源化に努めます。	木製チップリサイクル率の向上	木くず受入量と木製チップ排出量の比を90%以上を達成。	99.12% 達成	100.2% 達成	99.51% 達成
資源循環センター	資源の有効利用と社内から出る廃棄物の分別及び資源ゴミの再資源化に努めます。	資源ゴミのリサイクル量	2013年度末までに、有価資源ゴミの排出量を3%向上(2010年度缶ビンペット排出実績 299.2t)	381.55t 達成	298.35t 不達成	348.75t 達成
環境物流部門		新型車両の購入	Nox・PM対応車を2013年までに3台増車する。	10台増/4台減		達成
営業部門	地域に根ざした環境事業の推進で地域社会の貢献に努めます。	環境配慮の処理処分の提供	情報開示件数(情報発信件数を2013年度末までに2011年度実績の20%向上)	65件	88件 達成	112件 達成

維持管理項目

部門	環境方針	2011年結果		2012年結果		2013年結果	
		水道	電気	水道	電気	水道	電気
全構成員 (近畿環境保全(株))	電気・水道の使用	水道 1386m3	電気 95579kw/h	水道 888m3	電気 99514kw/h	水道 1589m3	電気 89791kw/h
全構成員 (湖南リサイクルセンター)	電気・水道の使用	水道 2068m3	電気 206235kw/h	水道 2001m3	電気 218496kw/h	水道 3393m3	電気 217904kw/h
全構成員 (有)ラゴ	電気・水道の使用	水道 279m3	電気 6431kw/h	水道 622m3	電気 6141kw/h	水道 520m3	電気 6156kw/h
業務・事務部門	事務用紙の使用 [生物資源の枯渇]	使用量 /従業員数	1当たり 6.517kg	使用量 /従業員数	1当たり 6.982kg	使用量 /従業員数	1当たり 6.955kg
業務・事務部門	事務用紙の排出 [廃棄物の増大]	排出量 /使用量	22.28%	排出量 /使用量	18.90%	排出量 /使用量	31.77%
湖南RC	中間処理後廃棄物の排出 [廃棄物の増大]	リサイクル量 /受入量	68.25%	リサイクル量 /受入量	69.24%	リサイクル量 /受入量	64.85%
環境物流部門	車両走行距離[大気汚染] 車両燃料[地球温暖化]	トラック 全車両平均	4.16km/ℓ	トラック 全車両平均	4.59km/ℓ	トラック 全車両平均	4.65km/ℓ
環境物流部門	廃食油の回収量の拡大	17,514ℓ		18,775ℓ		12,600ℓ	



廃植物油を
バイオディーゼル燃料にリサイクル



太陽光発電パネルの設置

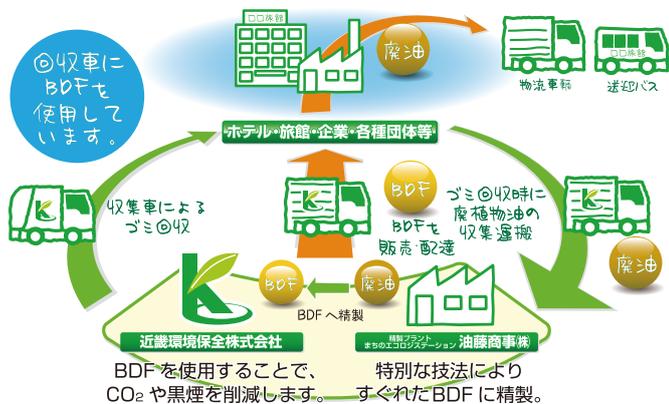
[地域における循環]

BDFプロジェクト

2013年度
3.64t
CO₂削減

循環型社会を目指し、2006年度から廃植物油を回収しています。その廃植物油は豊郷町にある油藤商事株式会社にて精製され、作られたバイオディーゼル燃料(BDF)が地域やお客様の車輛に使用されています。

BDFは新たに二酸化炭素を排出しないため、「カーボンニュートラル」な燃料であると言われています。またこの活動は、地域で排出された油を地域でリサイクルし再利用することにより、循環型社会の実現に近づくことができます。油の回収に協力いただいている企業様が増えていますが、廃植物油をリサイクルに出すお客様やBDFを活用するお客様も増えています。2013年度は12,600リットル油を回収しましたので、3.64tのCO₂を削減することができました。



[新エネルギー]

自然エネルギーへ参入

2009-
2012年度
27t
CO₂削減

グリーン電力

省エネ・CO₂排出削減を可能にした環境配慮型のリサイクル工場を実現しています。その一環として2009年～2012年の年間当グループの中核を担う湖南リサイクルセンターの工場使用電力の10%をグリーン電力でまかないました。3年間で約27tのCO₂削減につながりました。



太陽光発電

2014年6月よりF.R.O.Gセンターの施設に約12kWの太陽光パネルを設置し、太陽光発電を行っています。



コナン市民共同発電所へ出資

2013年度に、湖南リサイクルセンターから地元の湖南市における市民共同発電所式号機に出資しました。出資者として地域の自然エネルギー作りに積極的に参加しながら、地域の活性化を応援しています。



一般社団法人コナン市民共同発電所は、「湖南市地域自然エネルギー条例」の理念に基づき地域の自然エネルギーを利用して得た収益を地域で循環できるよう取り組んでいます。(湖南市HPより)

【市長コメント】 湖南市長 谷畑 英吾 様

湖南市では、地域の自然エネルギーは地域で活用することを基本理念とした「湖南市地域自然エネルギー基本条例」を平成24年9月に制定し、事業者や市民のみならずとともに持続可能な地域づくりを進めています。近畿環境グループ様には、この条例の趣旨を理解いただき、市民出資による太陽光発電所「コナン市民共同発電所」への参加やバイオディーゼル燃料の地域利用など、エネルギーの「地産地消」に取り組んでいただいていることに感謝いたします。地球環境への負荷低減や地域経済循環の促進にさらなるご貢献を期待するとともに、貴グループのますますのご発展を祈念申し上げます。



への取り組み



内モンゴルでのカラマツの植林

[植林による環境保全] カーボンオフセット

2008-
2013年度
400kg
CO₂削減

環境への負荷を軽減するために、2008年5月から内モンゴルにてカラマツの植林を行っています。植林により当社のCO₂排出量の約5%をカーボンオフセットしています。カラマツ1本が30年間で吸収できる二酸化炭素量はおよそ250kgであると言われています。

植林を通して、地球温暖化防止だけでなく、砂漠化進行の防止や土壌回復による生物多様性の確保など地球環境の保全にも努めています。スタートから2013年度末まで568本のカラマツを植林しました。これは、合計約400kgのCO₂削減量に相当します。

愛する地球のために 約束する協定

KINKANグループの当社である近畿環境保全株式会社では、2009年から地元の草津市と「愛する地球のために約束する協定」を結んでいます。温暖化防止や環境保全への取り組みを約束し、草津市に毎年報告しています。

2008年5月から内モンゴルにて カラマツの植林を行っています

順調にスクスク
育っています

キンカンの森



2011年 2012年 2013年 2014年

森の状況は <http://carbonfree.co.jp/tree-station/> でご覧になれます



【パートナー企業コメント】カーボンフリーコンサルティング株式会社 中国支社長 兼 植林事業部統括ディレクター 原 鋭次郎 様

中国内モンゴルの砂漠化は、食糧や水不足、貧困も引き起こしており、現地でも深刻な問題として取り上げられています。原因としては伐採や放牧、過剰な農耕地転換などの人間の経済活動等が考えられます。これらの解決策のひとつとして、植林活動をスタートいたしました。現在参加されている企業・団体数は250を超え、大きい樹種は2メートルを超えています。

CSRでは継続することがとても重要でありかつ困難です。近畿環境保全様の森は、継続して植林を行っており、とても素晴らしい結果を出し続けていると存じます。内モンゴルの砂漠化は日本へ飛来するPM2.5の原因のひとつでもあったと考えられます。日本企業、植林実施企業の力をあわせることで、これらの被害を減少させることにもつながります。



森林づくり

三雲生産森林組合様との間で「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を結び、森林づくりにかかる費用や労働力を提供し、森林整備の推進に努めています。



当グループと(株)エコネット様、(株)服部モータース様の3社が、三雲生産森林組合様との間で2009年より「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を結んでから、今年で活動は5年目になりました。この協定により、森林づくりにかかる費用や労働力を提供し、森林整備の推進に努めています。2013年度は11月16日に、枝打ち作業と草刈りを実施しました。また、当協定の看板の管理作業も行いました。

当グループはこの協定によりびわ湖の水源でもある森林を整備し、私たちの暮らしの支えとなっているびわ湖を守る活動をサポートしています。また、森林を元気にすると共に、CO₂の吸収量を増やし、地球温暖化防止への貢献にも役立てています。

また活動を通して地域住民の方々との交流を深め、環境に良い地域づくりと共生、基盤づくりを行い、未来の子供たちへ健全な自然を残していけるよう努めています。



CO₂吸収証書をいただきました



2009-2013年度
約**215t**
CO₂削減

3社の支援による森林整備の内容を毎年滋賀県庁森林政策課に申請し、滋賀県知事よりCO₂吸収証書をいただいています。2013年度の森林整備活動により71.06t CO₂が吸収されました。

協定の5年間あたり、合計214.65tCO₂の削減に貢献できました。



自然体験活動を開催

2013年3月17日に一般市民の方々に向けた自然体験活動が開催されました。三雲森林組合と循環型社会創造研究所えこらのご協力により、当社で間伐したヒノキでマイ箸づくりと三雲森林の原木にしいたけ菌植体験、およびネイチャーゲームを行いました。



毎月一回、KINKANグループ三社で会社の周辺にて清掃活動を行っています。また、毎年地域の美化活動に参加しています。

2013年度には、琵琶湖の清掃活動(4月4日)およびゴミゼロの日(5月30日)とびわ湖の日(7月1日)に守山市湖岸沿いと湖南市の親水公園で行われた清掃活動に参加しました。また、11月15日に京都市美化活動を行いました。

性の保全活動

ヨシでびわ湖を守る活動

2010年より「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」のメンバーとして、ヨシ刈り活動に参加しています。



草津市や近江八幡市で、湖岸や西の湖などのヨシを刈り、ヨシの有効利用とびわ湖の浄化を促進しています。2014年1月に、社外研修の一環として新入社員もヨシ刈りに参加、当社の環境保全活動を早速実感してもらいました。新入社員には先輩とともに汗を流して活動することは社内コミュニケーションやチームワークの向上にも役立つと感じてもらえたようでした。これからもヨシ刈りや森林づくり活動を積極的に研修の一つとして取り入れていきます。

NEW



びわ湖のヨシで名刺をつくりました!



多年生の草本のヨシは、成長のよい群落の場合、地上部の最大現存量が乾燥重量で2kg/m²にも達します。その植物体には窒素(1-3%)やリン(0.2-0.4%)が含まれていますので、刈り取って持ち出すことでびわ湖を浄化につながります。(滋賀県琵琶湖環境科学センターのHPより)

清掃活動

当グループは地域における清掃活動や美化活動に毎年積極的に参加しています。

【スタッフコメント】営業部 廃棄物・リサイクルチーム 鈴木 奈津子

滋賀県では琵琶湖の環境保全のために行われている活動が多数あり、弊社でもヨシ刈りや外来魚駆除、琵琶湖の日の清掃活動に参加しています。

私自身はヨシ刈りと琵琶湖の日の清掃活動に参加しました。束になったヨシや綺麗になった琵琶湖を見たときには達成感を感じることができました、改めて環境について考える良い機会となりました。

琵琶湖での活動を通じ、環境について考える機会があるというのは、滋賀県ならではの事だと感じます。今後もこのような活動に積極的に参加し、地域の方々やお客様とのコミュニケーションを図るとともに、環境についての知識を深めていきたいと思います。



「ゴミゼロの日」清掃活動



「びわ湖の日」清掃活動



京都市美化活動



毎月の清掃活動





滋賀レイクスターズホームゲーム会場にて

地元のスポーツを応援

プロバスケットボールチーム「滋賀レイクスターズ」を
スポンサーとして応援しています。



当グループは地域のスポーツチームを応援することにより、地域との交流や協働環境活動の活性化などに貢献することを目指しています。

「滋賀レイクスターズ」のホームゲーム会場において「エコステーション」と名付けた廃棄物回収場所で可燃ごみと資源ごみの回収を行っています。資源ごみの売却収益の一部を「循環型社会創造研究所えこら」を通じ、琵琶湖の環境保全に寄付しています。

2013/2014シーズンで集まった約470kgの資源ごみで、約6㎡のヨシを再生できる金額を寄付することができました。

また、2013年にレイクスターズの選手たちと共同で小学校にて3回の環境学習を実施しました。



エコステーションによる資源ごみ回収活動



開幕レセプションパーティーにて小川伸也選手と



地元サッカーチーム 「MIOびわこ滋賀」の応援

JFL (Japan Football League) で闘う「MIOびわこ滋賀」を応援しています。地元のサッカーチームであり、地域活性化活動の一環としてMIOへの支援活動に取り組んでいます。

【スタッフコメント】 営業部営業管理課 宮井 亮太

試合ではエコステーションを設置し、試合後のごみを集めています。ごみの分別にご協力頂いて、一人でも多くの方々へ分別の意識を持ってもらいたいと思います。自分自身、バスケットというスポーツにあまり興味を持っていなかったのですが、実際に試合を見ると、熱くなり応援したくなりました。会場のファンが一丸となって応援することにより、チームへの士気を高め、勝利へ向かって進む原動力になっていると思います。その中で、会社でも社員一人一人が協力し合い、共に称えあい、評価しあうことにより、会社の成長に繋がると思っています。地域密着の企業として、これからも滋賀レイクスターズを応援し、会社と一緒に成長していけるように頑張りたいと思います。



ニケーション



びわ湖環境ビジネスメッセ会場ブース

草津市エコフォーラムに出展

地域のイベントへ出展

滋賀県のような環境に関するイベントや
ビジネスマッチングフェアなどに積極的に出展しています。

びわ湖環境ビジネスメッセ

2013年度も、びわ湖環境ビジネスメッセに出展し、当社の事業や取り組みなどを紹介しました。びわ湖環境ビジネスメッセは、「環境と経済の両立」の基本理念のもと、毎年開催されています。10月24日(木)～26日(土)の3日間、長浜ドームにて開催されました。314社の企業が出展し、34740名が来場されました。

我々KINKANグループも、8回目の出展となり、新事業である食品リサイクルや回収の新たな仕組み、環境活動などをご紹介しました。また、メッセの機会を研修の場として、当社内定者と新入社員に、我が社を学びながらお客様とふれあってもらいました。

当社ブースには1000名以上の方々にお越しいただき、メッセは有意義なコミュニケーションの場となりました。



当社ブースに1000名以上の方々にお越しいただきました



毎年若手社員を中心に準備及び出展しており、研修の場としても活用しています

草津市エコフォーラム

毎年夏に当グループ本社がある草津市にてエコフォーラムが開催されます。環境問題や取り組みなどについて最新情報の講演会と展示会が行われます。当グループは昨年に引き続き、2013年8月30日のエコフォーラムに出展し、草津市における企業と団体の方々と交流をはかりました。



草津市子ども環境会議

2013年2月1日に開催され、長い歴史を持つ、子どもの環境活動を推進している「草津市子ども環境会議」に参加しました。子どもたちに、プレスされた缶などを見て触れる展示を行い、リサイクルを身近に感じてもらいながら再利用の仕組みを伝えました。



【スタッフコメント】 営業部 廃棄物・リサイクルチーム 池元 大輝

昨年、びわ湖環境ビジネスメッセをはじめ、草津市エコフォーラムなどのイベントに参加しました。各ブースの出展を見て、改めて「環境」という言葉の裾野の広さを実感しました。出展者の立場として感じたことは、来場されている方々の環境への意識の高さです。来場者の皆様とコミュニケーションをとるなかで、「自分ももっと意識を高めていかなくては」と、刺激を受けました。そして、入社初年度であったということもあり、弊社の事業内容や環境への取り組みについて、改めて勉強する良い機会になりました。



地域とのコミュニケーション



環境イベント
「Live! Do You KYOTO?」

環境イベント「Live! Do You KYOTO?」に協力

音楽を通じてエコを考えてみよう、2008年から始まった京都における「Live! Do You KYOTO?」は、2013年で6年目を迎えました。出演するアーティストはもちろん、会場に足を運んでくださるオーディエンスの皆さんは、会場へエコキャップを持ってきてくださり回をかさねるたびに、たくさんエコキャップが集まるようになってきました。

この音楽とエコを組み合わせたイベントに当グループも賛同し、スポンサーとエコキャップ回収の協力者として関わっています。2013年のイベントで集まったキャップは600kgを超え、昨年より15倍になりました。



「Live! Do You KYOTO?」の方々と「えこら」とともにエコキャンドルを作りました



2013年度に600kg以上のエコキャップが集まりました

資源ごみでびわ湖の環境保全

KINKANグループは、2010年度より資源ごみでびわ湖の環境保全活動に協力しています。お客様から提供していただいた缶やペットボトル、古紙、廃植物油などの資源ごみを、「循環型社会創造研究所えこら」を通じ、びわ湖の環境保全と環境意識の促進に活かしています。資源ごみで集まった金額は「マザーレイク滋賀応援基金」と「びわ湖の日基金」に寄付されます。2013年度には、約29トンの資源ごみを寄付につなげることができました。

「循環型社会創造研究所えこら」は資源ごみでびわ湖の環境保全活動や環境学習、エコに関するイベントの開催などを行っています。

2013年7月に淡海ネットワークセンターの「おのみネット」市民情報紙に近畿環境保全(株)とえこらのパートナーシップについての記事が掲載されました。

クリスマスキャンドル作り



【お客様コメント】ミュージシャン ACE 様 (from face to ace)

「環境」というテーマに対して我々ミュージシャンがどんなアクションを起こすことができるのか? Live! Do You KYOTO? というイベントを通して、参加して下さった人達ひとりひとりが自身の生活の中で出来る事を考え実行して行く、そのための小さな「きっかけ」になれないものか、いつもその事を考えています。モノを大量消費し続ける生活に慣れ切った現代人が江戸時代のような循環型社会に立ち戻ることはハードルが高いと思いますが、限りある資源を有効に「再活用」して行くという発想をもっと身近な生活習慣として個人単位で取り入れて行かなければならない時代に来ていることは確かです。例えばエコキャップ回収といった、ごく日常的に誰もが出来る活動を足がかりに、その先にある大きな課題にも「意識を向ける」ことが重要です。たとえ個人の力ではどうにもならないような事柄でも、まずひとりひとりが「関心を持つ」ことがスタートになります。大きな課題として例を挙げれば日本の林業の再生。それがひいては環境の保全にも繋がることを日常生活レベルでひとりひとりが意識して行くべきではないでしょうか。近畿環境保全の皆様が、環境を考える上での「道標」としても今後益々広がって行く事を期待しております。



環境学習活動



当グループでは子ども向けの環境学習を積極的に実施しています。

ごみのことやリサイクルの方法などを次世代の子どもたちに伝えることは、環境意識の向上と持続可能な社会への構築につながると信じています。子どもたちにはごみ分別とリサイクル方法について学習してもらいます。実際に車輦にごみを積み込む体験や、廃植物油の精製の仕組みを見学したり、プレスされた缶、プラスチックインゴットなどに触れながらの説明で、子どもたちはリサイクルを肌で感じることができます。



2013年9月に野洲の三上小学校にて、2014年5月に湖南市の三雲東小学校にて4年生の環境学習を行いました。社会学の中、家庭ごみの種類の学習とクリーンセンターの見学を実施し、ごみのリサイクルと回収の仕組みを説明しました。

また、毎年出展している東近江市の二五八祭りにおいて、参加した子どもたちに廃棄物収集運搬の仕事を経験してもらいました。子どもたちがこのような経験をすると、「分別、もっと頑張る!」や「バイオディーゼルで動く車があるとはじめて知った!」、「お仕事が大変ですが、頑張ってください!」などのあたたかい感想をいただき、学習の有意義性を実感しています。

【お客様コメント】湖南市立三雲東小学校 馬野 美岐 先生 「住みよい社会を共につくる」

これからは、学んだことを活かして、自分には何ができるのかを考え、一日につき、ペットボトル一つでも、進んで分別できる態度を身に付けてほしいです。リサイクルして、資源を大切にすることは、資源を生み出す環境を守ることに繋がります。今回の学習は、5年生で学習する琵琶湖などの身近な環境に繋がりのあることだと、子どもたちはきっと発見するでしょう。合わせて自分たちの生活が清潔であることは、働いている人に支えられていることを心に留めておいてほしいです。子どもたちと共に教えていただいたことを、私たち大人もできることから実行し、みんなが住みよい社会を作っていきたいと、今回の活動を通して思いました。



【スタッフコメント】環境事業部 環境システム物流課 主任 大森 高志

僕らの仕事を、子どもたちに話せる事、とても嬉しく思っています。ゴミ=「捨てるもの」と、イメージがあると思いますが、環境学習を通じて、子どもたちのゴミに対する意識が変わるきっかけになればと思っています。我々の学習の特徴は実際に体験することです。パッカー車の積み込み体験や資源ゴミとのふれあいをする、それまでに大人しかかった子たちは目がキラキラになり、気分が圧倒的に変わります。その変化した姿と笑顔を見ると、こちらも嬉しくなります。子どもたちからいただいた感想を読んで、この仕事やゴミに関する考えが変わったり、分別をちゃんとやると約束してくれたりして、学習をやってよかったなというも思います。





いしべ共働作業所との取り組み

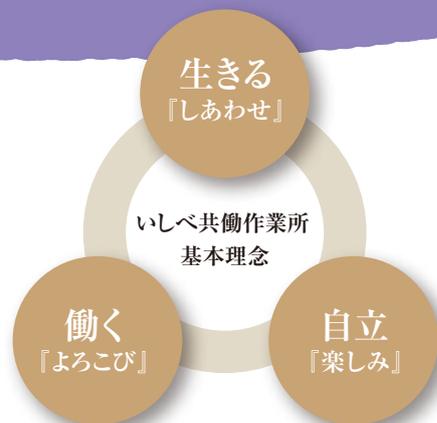
地元にある、いしべ共働作業所の障がい者の皆さんとともに作業を行っています。

2011年度より始めたいしべ共働作業所との取り組みでは、現在6名に作業をしていただいています。湖南リサイクルセンターにて機械の解体や段ボールの開梱作業、資源循環センターにおいて溶融作業と缶・ペットボトルの選別作業をともにを行っています。

人数と作業の範囲を増やし、これからもこの取り組みを進めていきたいと考えています。2014年9月に障がい者雇用のセミナーに参加し、雇用方法や活動の様々な事例を学ぶことができました。



いしべ共働作業所の障がい者の皆さんと選別作業を行っています



いしべ共働作業所



いしべ共働作業所は、昭和62年4月(株)川合製作所内で発足し、平成20年に新体系移行に伴いNPO法人となり現在に至ります。定員は20名で、就労移行支援事業及び、就労継続支援B型事業のサービスを実施しており、共に就労の機会や、生産活動の機会を提供しています。

いしべ共働作業所が大切にしている3つの基本理念:
①生きる『しあわせ』②働く『よろこび』③自立する『楽しみ』
この理念を追求することにより、企業就労の実現を目指すと共に地域の中での確立を目指しています。

【パートナー団体コメント】

色々な種類の仕事ができるので、楽しい!

難しいことは全然なかった。これからもこのような仕事をやりたいと思います。



田中 秀男様

片づけが大好きですので、楽しい!

古紙の分別が難しかったが、キンカンスタッフが教えてくれたので、分別にはもう慣れてきました。



青木 成貴様

発泡スチロールを割るのが楽しい!

将来、ダンボールの組み立ての仕事をやりたいです。



石川 明彦様

取り組み



写真提供 JCV:禁無断転載

エコキャップ推進運動

当グループは、2009年度より「NPO法人エコキャップ推進協会」活動に参加し、エコキャップの送付先となっています。本活動にご理解頂いている関西エリアの皆様より毎日たくさんのおエコキャップが送られ、回収量は年々増加しています。今後も発展途上国の子どもたちのためにこの活動を支援していきます。

2kg(860個)のキャップの値段は、子ども一人分のワクチンになります。ワクチンがブータン、ラオス、ミャンマーに贈られ、主な感染症から子どもたちの命を助けることができます。さらに、キャップをリサイクルすることによって新しく製品に生まれ変わり、CO₂削減にも貢献できます。2013年度末現在、当グループにて集まったキャップは合計22,414,782個(52,127.4kg)であり、その個数は26,063人分のワクチンに相当します。昨年度と比べ、エコキャップの回収量は7.5%増加し、エコキャップ推進運動に参加される方々が年々増えていることを実感しています。



キャップ
22,414,782個で



約26,000人分の
ワクチン

(2013年度末現在)



古紙で寄付活動

読売新聞の販売店と共同で始めたこの共同プロジェクト。読売新聞を購読されているお客様から古新聞や缶・ペットボトル・雑誌などを回収しています。

リサイクルした収益の一部を年々異なるところに寄付しています。2010年度には植林活動に寄付し、2011年度には大震災で親を亡くされた子どもたちに「あしなが育英会」を通じて支援活動を行いました。

2012年度と2013年度にはアジアの子どもたちにワクチンを贈るJCVに寄付しました。



【パートナー団体コメント】 NPO法人エコキャップ推進協会 理事長 矢部 信司 様

エコキャップ推進協会の運動では、小さなキャップを通じて、未来の地球環境や、子どもの命、そして、限られた資源を有効に活用する事など、皆様がこれらの問題解決を考えるきっかけになればと啓発活動をしています。昨年度までのワクチン代の累計は、約1億2千万円を寄付し、ポリオワクチンの人数に換算すると約623万人分となりました。その他、震災義援金の寄付や現在は、障がい者支援に力を入れ活動しております。近畿環境保全様には、これまでたくさんのエコキャップをご提供頂いております。今後とも、共にエコキャップ運動の発展に取り組んでいきましょう。



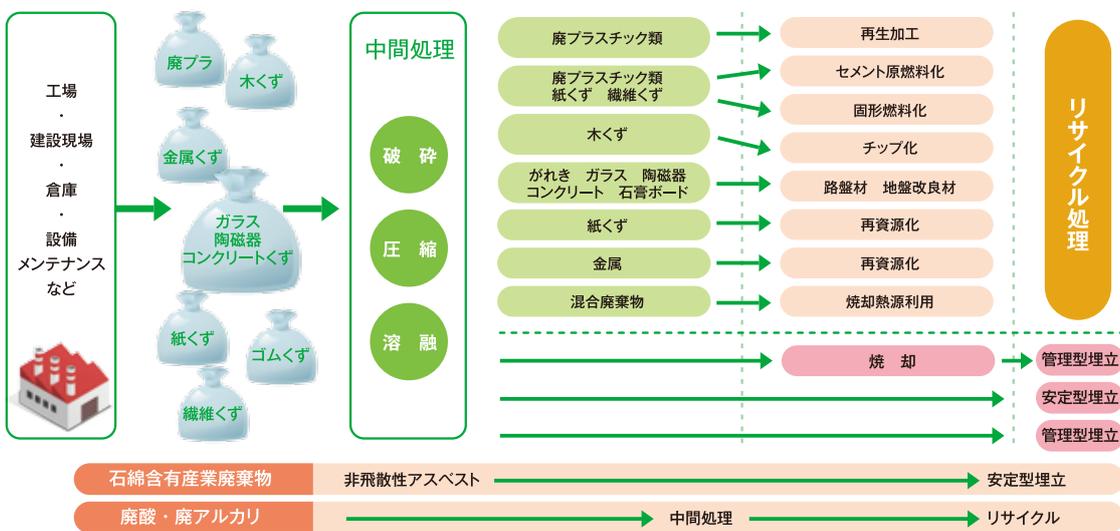
事業内容の強化 [体系的な事業内容]

当グループはお客様のニーズに応える為、多岐に渡る許可を取得し、収集から最終処分までを適切に管理しています。

事業系一般廃棄物 (収集運搬)



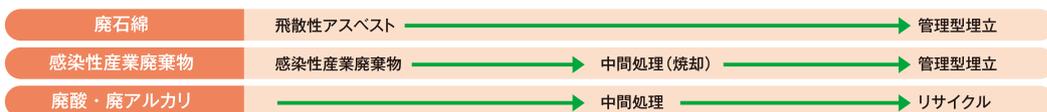
産業廃棄物 (収集運搬・中間処理)



食品廃棄物 (収集運搬・中間処理)



特別管理産業廃棄物 (収集運搬)



T-POINT が貯まります。

環境に配慮した eco 解体：開発事業部

建築解体業

見積、施工説明、契約

近隣住民への挨拶まわり

分別解体
木くず(柱など) 瓦
コンクリート ガラ
廃プラスチック類など

自社運搬

グループ施設でさらに分別、処理

当社グループ内で解体から廃棄物の収集運搬、処理まで一貫施工



最適な車両を手配し、お客様のもとへ



KINKANグループが保有する運搬車両は、お客様のニーズに幅広く対応できる充実のラインナップ。廃棄物の種類に合わせた多彩なコンテナと、最適な車両を手配し、お客様のもとへお伺いいたします。

15t 低床WING車

台数：2台(15t)



一度に多量の荷物を運ぶことができます。段積み、リフトでの積み込みが可能です。小コンテナやフレコンバッグなどの積み合わせにも適しています。

平ボディ車 台数：1台(9t)



小コンテナやフレコンバッグなどの積み合わせが可能です。

ユニック付平ボディ車

台数：1台(4t)



ユニックで釣り上げでの積み込みが可能です。リフトをお持ちでないお客様にご活用いただいています。様々なコンテナの積み合わせや小コンテナの交換が可能です。

パッカー車

台数：1台(9t)、1台(7t)、8台(4t)、7台(3t)



圧縮型の積み込み車両です。重量が軽く圧縮できる廃棄物を大量に積み込むことができます。

計量器付き：7台



巡回回収を行っていても、個別に重量計量ができる計量器付

アームロール車

台数：3台(10t)、3台(9t)、6台(4t)、2台(2t)



当グループのスタンダード車両です。荷台がコンテナになっているので、そのまま降ろして設置できます。

ユニック付アームロール車

台数：1台(4t)



ユニックで釣り上げでの積み込みが可能です。リフトをお持ちでないお客様のもとで、コンテナの積み合わせや小コンテナの交換ができ、荷台のコンテナをそのまま設置することも可能です。

2tアルミ車、軽トラック車

台数：各2台



主に資源物の回収に使用しています。道幅の狭い住宅地など、小回りの効く回収ができます。

冷蔵車 台数：1台(3t)



最適温度を保持する冷蔵車です。主に食品廃棄物の運搬に利用しています。

コンテナ一覧

小口産廃回収「エコ回収BOX」



資源ごみのリサイクルステーション



事業系一般廃棄物 処理

資源循環センター

ダンボールや古紙、空き缶、発泡スチロール、ペットボトル等の資源ごみをリサイクルする再生施設です。

可燃ごみの収集車とは別に2tアルミ車にて収集を行い、資源ごみを巡回回収しています。

お客様の持込にも対応しており、有価物として買取りしています。



回収



選別圧縮機



磁石でアルミ缶とスチール缶を選別し、圧縮

製鋼原料として再生



圧縮処理された空き缶

大型圧縮機



ペットボトルおよびダンボール、古紙を各種類ごとに圧縮

プラスチック原料、製紙原料として再生



圧縮処理されたダンボール、ペットボトル

溶融機



発泡スチロールを細かくし、インゴットの形に溶融

プラスチック原料として再生



溶融処理された発泡スチロール

処理した資源物はすべて有価物として販売しています。

食品リサイクル・ループの実現を目指して



F.R.O.Gセンターのキャラクターです。
不要な食品を有効に利用できる
飼料・肥料にカエル!

F.R.O.Gセンター

FOOD RECYCLE ORGANIC GATHERING SYSTEM

2013年に食品リサイクル工場、F.R.O.Gセンターを新設しました。

F.R.O.Gセンターでは、食品の製造、流通、消費の各段階で生じる食品廃棄物を、飼料、肥料へとリサイクルしています。これまでゴミとして捨てられていた食品を発酵後、飼料や肥料として利用し、ごみ処理や環境への負担が軽減できます。また、廃棄物が減少することにより処理にかかるコストも削減できます。

【スタッフコメント】

営業部
廃棄物・リサイクルチーム
北川 光一

弊社では2013年に食品リサイクル工場、F.R.O.Gセンターを新設いたしました。

工場の新設により、これまで焼却処理を行うことしかできなかった食品廃棄物に関しても、お客様のニーズに合わせてリサイクル方法のご提案が可能となりました。

様々なお客様にこの施設を活用して食品リサイクルに取り組んでいただけるよう、食品製造業や流通関係などの業種を訪問し食品リサイクルループを広げていきたいと思っております。

環境への意識が高まっている中で、このような環境に配慮した処理を行っていくことの重要性を感じています。



容器に入っているものや袋入りのものを分別



缶入飲料やペットボトル飲料を分別



保管スペースが大きいので大量に食品廃棄物を保管可能

12t
日量処理能力

99.6m³
保管面積

36m³
日量処理能力



県下最大級の処理能力を有する ゼロエミッション工場

産業廃棄物 処理

株式会社湖南リサイクルセンター

株式会社湖南リサイクルセンターでは産業廃棄物、一般廃棄物の処理とリサイクルを行っています。廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、ガラス・陶磁器・コンクリートくず、金属くずなど8品目を取り扱っています。適正な選別、中間処理を行い、マテリアルリサイクルや、サーマルリサイクルに繋げます。また、お客様のニーズに合わせたリサイクル、処理を行います。



再活用可能な廃棄物

マテリアル リサイクル

搬入される廃棄物から有価物のプラスチックを当工場で粉砕、圧縮、溶融加工し、国内外に売却しています。また、塩化ビニール(塩ビ)パイプ専用の粉砕機を導入し、更にリサイクル率を向上させています。処理されたプラスチックは国内外にて、新しいプラスチック商品に生まれ変わります。



「ゼロエミッションリサイクルの流れ」

マテリアルリサイクルできない廃プラスチック

セメント リサイクル

廃プラスチック類
(塩ビを除く)



100t
日量処理能力

圧縮
処理



プレス梱包された廃棄物

株式会社トクヤマにて
セメントの原燃料化
としてリサイクル

ゼロ
エミッション
達成

セメントリサイクルできないプラスチック、紙くず、繊維くず、また、その混合物

固形燃料(RPF) リサイクル

廃プラスチック類、紙くず、
木くず、繊維くず
(塩ビを除く)



100t
日量処理能力

圧縮
処理



プレス梱包された廃棄物

製紙会社にて
バイオマスボイラーに
使用しリサイクル

固形燃料



ゼロ
エミッション
達成

セメントにも、RPFにも適さない廃棄物

サーマル リサイクル

廃プラスチック類、金属、
木くず、紙くず等、
混合物廃棄物、
複合廃棄物



200t
日量処理能力

破碎
処理



破碎処理された廃棄物

排熱を発電に
利用後、灰を
スラグ・メタルとして
リサイクル

ゼロ
エミッション
達成



木材チップ専用破砕施設

産業廃棄物 処理



湖南リサイクルセンターに同設する木材チップ専用破砕施設では、種類ごとに搬入された木くずを、破砕施設によりチップ化します。木材チップは製紙原料や建材原料、マルチ堆肥などに利用されています。原料や堆肥として利用出来ないものは、バイオマスボイラーの燃料として活用しています。自然の恵みを有効に再利用することを目的に、木材のリサイクル率100%を目指しています。

[様々な状態の木くずを有効にリサイクル]

チップの活用例



木の温もりを感じ周囲の景観との調和が取れるライフスタイル

WeedLock 「森のれんが」



車輦が乗れる唯一の木質成型舗装材「森のれんが」

当グループ木材チップを原材料に、木の樹脂で固形化した木質100%リサイクル素材で、初めて車輦の乗り入れ基準をクリアした製品です。環境にやさしい無公害で、高い断熱効果とヒートアイランド現象の防止効果がありますので、駐車場や歩道、外構周りなどの屋外でご利用できます。



純木パレット、梁、柱材など



合板、腐敗パレット、生木、枝葉など



釘などの金属は磁力選別機により分けられます。



200t
日量処理能力

木くずを破砕してチップを製造します。

有価物として売却されます。



- 製紙原料チップ
- 建材原料



- 堆肥
- バイオマスボイラー燃料チップ



[第三者意見]

大きな前進 構成の体系化

KINKANグループとしては、この2014年版が環境報告書の第6号ということです。この種のものを作成して外部に提供し続けるためには大変な努力の継続を必要とし、数年で止まってしまう事例も多いのです。それだけに、いろいろな期待をしながらページを開きました。

実際に読み進みますと昨年の第5号との大きな変化にすぐに気がつきます。環境方針も掲げられ、全体の構成がより体系的になったこと、また、そのためにそれぞれの活動の位置づけが明確になったことです。このことは、グループが目指しているのは何なのか、そのためにグループが日々努力していることは何なのか、これらの理解につながる報告書に成長してきたということに他なりません。何よりもここまでこぎつけた情熱と努力に敬意を表するものです。

多岐にわたる活動内容

環境マネジメントへの取り組みはコンプライアンスの内容や取り扱い許可品目の府県別に整理された詳細な一覧表から始まり経営分野の特性をよく反映するものとなっています。

それに続く自然保護活動、地域活動は多様な展開を見せていて、ある意味では「環境報告書」から「CSR報告書」への過渡期的な性格を帯びるものになっていると言えます。環境というフィルターを通して、福祉や教育などとの複合サービスを創出し、時代にあわせた変化を進める、という構想がトップメッセージに示された背景もこうした面に現れているのでしょう。

報告書の深化のために

分析的な面では、廃棄物関連事業は他の分野の事業とは異なり、たとえば社内でのエネルギー消費削減のような内部の環境改善活動と、社会の廃棄物をどれだけ適正に扱ったのかという外部の環境改善活動との両面を備えているという特性があります。この両面を統合的に把握できる視点が提供されると、社会がグループを評価する際の有効な手がかりにもなることが期待されます。

また総合的な面では、事業活動が多様化すればするほど、社会一般に向けた報告書は総花的なものに陥りやすいのが実情です。次には「時代に合わせた変化」に応じた報告書のビジョンをお示し頂けることを願うものです。



滋賀県立大学
名誉教授

土屋 正春 様

■プロフィール

滋賀県立大学環境科学部長、副学長を経て現在は名誉教授。また、水資源環境学会会長、(公財)千里リサイクルプラザ研究所長、および(一社)滋賀グリーン購入ネットワーク会長を務めており、これらは深刻化する環境問題にオープンな姿勢で臨む組織づくりの推進という点で共通している。





【環境・社会活動のあゆみ】

- 2005年 ISO14001 認証取得
- 2006年 廃植物油の回収・BDFプロジェクト開始
- 2007年 琵琶湖環境ビジネスメッセ参加開始
- 2008年 社内環境ポイント制度開始
- 2009年 環境報告書の第一号を発行
森林づくりパートナー協定
エコキャップ推進運動開始
愛する地球のために約束する協定
滋賀グリーン購入ネットワーク 入会
- 2010年 ヨシでびわ湖を守るネットワーク参加
循環型社会創造研究所えこら設立
- 2011年 第3回草津市地球温暖化防止大賞受賞
第2回しが低炭素リーダー賞受賞
いしべ共働作業所 障がい者雇用開始
- 2012年 第4回草津市地球温暖化防止大賞受賞
- 2013年 コナン市民共同発電所へ出資
- 2014年 太陽光発電パネル設置



【お問い合わせ】

近畿環境保全株式会社 営業本部

〒520-3114 滋賀県湖南市石部口3丁目6番13号

TEL 0748-77-7288 FAX 0748-77-7299

E-mail: info@kin-kan.co.jp

URL: <http://www.kin-kan.co.jp> 担当: 西村 幸佑



KINKAN GROUP

近畿環境保全株式会社「一般・産業廃棄物収集運搬・中間処理」
株式会社湖南リサイクルセンター「一般・産業廃棄物中間処理」
株式会社きぶら〔有価物商社〕
有限会社ラゴ〔京都市一般廃棄物収集運搬〕



この冊子は再生紙を使用しております。